

第IV部門

都市の歴史的要素とコミュニティ ～福島区における碑・寺院・神社と表出の関係分析～

大阪工業大学工学部 学生員	○尾崎 雄一郎
大阪工業大学工学部	佐藤 彰倫
大阪工業大学工学部	佐伯 望
大阪工業大学工学部 正会員	田中 一成
大阪工業大学工学部 正会員	吉川 眞

1. はじめに

現代社会において人と人のつながりが薄れ、近隣同士のトラブルから発展した事件が多く報道されるようになった。コミュニケーションの不足がこのような問題の原因のひとつであり、特に都心部では、安心して暮らせる町を形成することが求められている。コミュニケーションに寄与する空間の要因や場所の特性は様々なものが存在すると考えられる。

日本は戦後からの経済成長と共に市街地の拡大が進み、それと共にコミュニティの問題も浮き彫りにされてきた。一方地方には、まだ都市化されていない町並みが残る場所が多くある。そこで、両者のコミュニティの充実度の差異や、それに関係している要素の違いをみていくことで、新たなコミュニティ創出の手がかりが得られるのではないだろうか。町がどのようなコミュニティを確立しているかという現状を把握することで、コミュニティをより充実させるための要素を抽出し、上記の問題の解決につなげていく。本研究に先立ち「田舎と都会」と「コミュニティ」の関係性を探る調査・分析を行なった。ここでは、まずコミュニティの発達程度から「古い町」と「新しい町」の2つに分け、空間の物的な差異が見られるか否かをサーベイした。この結果、「古い町」は年代を重ねた建物が多く存在し、また寺社仏閣などが多数存在することなど、空間の特徴がみられた。一方、「新しい町」では、このような部分はみられないが、良好なコミュニティがあると考えられる住民間の「つながり」を示す状況が観察できた。

このことから、人の「つながり」は容易に作られるものではなく、コミュニティが形成されるにはある程度の時間を掛けることが必要であると考えられる。この時間という要因を、「町の歴史」と関連づけて考えていくことで、「町の歴史」がコミュニティにどのように影響を及ぼしているかを調査、分析していく。

2. 研究の目的と方法

本研究は、町の歴史と住民間のコミュニティの関係を明らかにすることを目的とする。ここでは両者を物理的な指標を用いて、GISにより解析することを試みる。町の歴史を歴史的建造物と考え、特に神社・寺院・碑・祠・地蔵に着目し、その位置と建造・設置年を調べる。次に、住民間のコミュニティとして表出に着目する。「表出」とは、公共空間に置かれた個人の私物のうち、ゴミなどの「あふれだし」とは異なり飾るものなどプラス側に作用することを意図として置かれるもののことをいう。表出はコミュニティを図るひとつの指標として評価されており、既往研究でも利用されている要素である。この表出の量と位置を調べ、歴史的要素との関係をみることで、両者の関係を物理的に分析する。

3. 対象地区

本研究の対象地区として、大阪市福島区を選定した。福島区は、多くの歴史的建造物を有している町である。一方で梅田に隣接していることから、梅田に近い地区には高層ビルが建ち並んでおり、幹線道路や私鉄なども通っていることで交通の便でも充実している。このことから、歴史的地区と新しい地区が混在している状況にある。また、それ以外の要素としてY路地などの道路構造をもつ不正形地が多く点在している。原因として高度経済成長の市街地の拡大と共に成長してきた地区であり、昔は田んぼのあぜ道だった場所がそのまま街路として残ったとされている。これにより、細かい様々な地区が混在していると考えられる。



図-1 対象地

4. 表出と碑・寺院・神社の分析と考察

本研究では、表出として植木鉢を分析対象とする。調査を行う際に、500×500mm の面積を一つの表出の範囲として平面的に板を当て計測し、一つのポイントデータとして表す。現地調査は、2007年11月に行なった。このポイントデータをSIS上にプロットし、Arc GISを用いて福島区における表出の密度分布図を作成した。それと同時に歴史的建造物として碑・神社・寺院・祠・地蔵の位置と建造経過年数のデータを同数値地図上にプロットし表出の密度分布図と比較、分析を行った。

分析の結果、図-2に示すように表出の分布が地区間で偏りがみられることが明確となった。大通りに面した場所には、表出が少ないことが確認でき、逆に、大通りから路地に入った住宅の前に多く分布していることがわかった。その他にも、表出は飲食店や理容室などの前に多く見られた。

対象地区内における表出の密度分布が高い場所、特に対象地区の北東側は、碑・寺院・神社ともに古い歴史を持つ建造物の分布が多く、歴史がある場所である。表出の密度分布図結果では、表出がなく色が薄く表記されている箇所がある。これらは、公園や大型小売店舗、興行施設であるため広いスペースを占めている。

今回の分析結果から、表出の密度分布に歴史的建造物が関係していると考えられる点について考察をする。密度分布図では、これら歴史的建造物の多くは区画の内側にあり、土地利用図と照らし合わせても、その多くが住宅に囲まれた形になっている。福島区では江戸時代に多くの寺院が建造されたが、江戸時代では、寺院が役所の役割を果たしていたこともあり、当時の人の生活に寺院が密着していた。つまり、これらの寺院・神社等は現在より身近な存在にありながら、かつ、人が交流する場として利用されてきたのである。これらが人の生活と強く関係していたことから、寺院や神社等の周辺では住宅地として土地利用がされてきた。そのような環境でコミュニティが形成され、寺院・神社等と結びつきの弱くなった今でも、その時代の流れや意識が人々の間に残り、昔から続いてきたつながり(コミュニティ)が現在の表出と歴史的建造物の関係を形成しているのではないかと考えられる。

5. おわりに

本研究では、都市の歴史性とコミュニティというソフトの部分について、物理的な分析からその関係を明らかにした。ここでは、歴史性のある寺院や神社等と、コミュニティをあらわす植木鉢等の表出の関係が GIS を用いることで明確に表現することができた。

「町の歴史」と人の「つながり」に着目してきたなかで、時間という要素がこの2つにとって重要であることがわかった。時間の変化にとまない「町の歴史」は深みを増し、人の「つながり」はよりその関係を強くしていく。時間の経過とは、町にも人にも成長するうえで欠かせないものである。

今後の課題として、本研究でその一部を明らかにした仮説の真意性を強めるために、調査範囲の拡大とデータ量の増加を図る必要がある。また、町の歴史を考える上で歴史的建造物である碑・神社・寺院・祠の建造経過年数以外の指標に着目する必要があると考えられる。

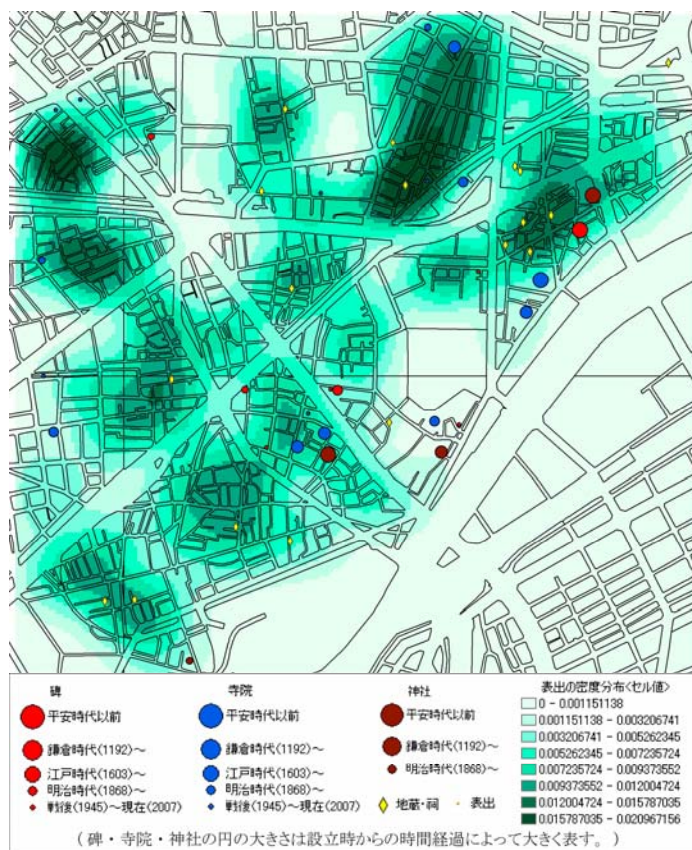


図-2 密度分布と建造物の位置と凡例